

## 〈わかちあい〉の共育学をめざして

### —「何ができるようになるか」で評価され序列化されない学び—

現在、教職課程を置く全国すべての大学の教員養成は、文部科学省がまとめた「教職課程コアカリキュラム」に基づいておこなわれています。教職課程コアカリキュラムがめざす教育がおこなわれることにより、子どもは、これまで以上に「何ができるようになるか」によって評価され序列化されるようになるのではないかと懸念されます。そこで今年度の子育て連携部会では、コアカリキュラムに基づく教職課程再課程認定を概観しつつ、人間本来の姿である〈わかちあい〉を大切にしたい、おとなどうし、子どもどうし、おとなと子どもが共に育ち合えるような学びについて考えたいと思います。

#### 第1講 3月7日（土）10時00分～12時00分 （於：HRC ビル4階研修室A）

##### 【テーマ】 「能力強化」のなかで「教育」について考える

「能力強化」と「教育の強靱化」が進んでいます。それらと「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」、また特別支援教育や「特別の教科 道徳」、さらには「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」（10の姿）などは、どのように関連しているのでしょうか。それらの関連が反映された、今年度から実施されている教員養成課程（コアカリキュラムに基づく教職課程再課程認定）の変更点等を題材にして、改めて「教育」について共に考えていきたいと思います。

話題提供者：齋藤尚志（小田原短期大学）

#### 第2講 3月7日（土）12時50分～14時20分 （於：HRC ビル4階研修室A）

##### 【テーマ】 「発達」促進的な保育の陥穽—「子どもに圧力をかける」保育になっていませんか？

保育では、「年齢区分」ではなく「発達過程区分」という用語を使用し、それぞれの子どもの育ちゆく過程の全体を大切にしてきました。同一年齢だからという理由で、すべての子どもに画一的な保育をおこなってはならないという戒めが強く働いていたからです。しかし「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」（10の姿）が示されたことにより、この戒めを堅持することが難しくなったように思います。「子どもに圧力をかけない」保育について語り合しましょう。

話題提供者：井上寿美（大阪大谷大学）

#### 第3講 3月7日（土）14時30分～16時00分 （於：HRC ビル4階研修室A）

##### 【テーマ】 いじめ防止対応としての道徳教育—内心の自由と教育の関係を問い直す—

2011年の大津市中2いじめ自殺事件をきっかけにして文部科学省は、道徳教育強化の一環として、今回の学習指導要領において「特別の教科 道徳」（道徳科）を新設しました。しかし道徳教育は、いじめ防止にそれほど有効な手段なのでしょうか？ また、そもそも道徳教育をとおして、子どもの心に働きかけることに問題はないのでしょうか？ 「道徳」を「教育する」という営みについて、参加者のみなさんと意見交換ができればと考えています。

話題提供者：笹倉千佳弘（滋賀短期大学）

- ・参加費は無料です。3講座の中から興味のある講座を選んで参加することも可能です。
- ・資料準備の関係上、できれば事前に申込書に記入の上子ども情報研究センターまでご連絡ください。
- ・主催・問合せ 公益社団法人 子ども情報研究センター